



写真左端が、コミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科の真田幸光教授

CAMPUS TOPICS

コミュニケーション学部の真田幸光教授がモンゴル商工会議所顧問に就任 昨年末、モンゴルへ出張

大学

2002年年末、厳冬のモンゴルに、各種専門性の高い日本人ビジネスマンの方々十数人、そして学生たち9人総勢26人で行って参りました。

今回のモンゴル訪問は、正味たった二日間のハードスケジュールでありましたが、企業訪問9社、モンゴルの私立オトコンテンゲル大学の学生と交流、市場や百貨店などの市内見学、乗馬、日本人の主催するファッションショー、そしてモンゴル商工会議所主催・大統領主催のパーティーなど、盛り沢山の予定が組み込まれた充実した旅行でありました。

モンゴルでは1990年代初頭に始まった市場経済化によって、中国本土とロシアの商品の需給アンバランスを繋ぎながらその鞘を抜くビジネス例え、主としてロシアの物不足、中国本土の生産過剰を睨みながら、中国本土からロシアが欲しがっている品物を極力安く仕入れ、これをロシアに極力



モンゴル商工会議所からの顧問任命書

高く販売するビジネス等で元手の資金を3〜4倍にし、更にその資金を3〜4倍にするといった形で少ない元手資金を複利型で拡大していったビジネスマン達などがいます。彼らはロシアに留学経験のある人物たちが多く、まずロシアのTWSをしかりと掴み当初は少ない元手で中国へ赴き商品を購入、これを持ってロシアに販売に行く、そして販売代金であるドルをロシアの闇市場などで米ドルに変え、更にこの米ドルを持って中国・北京などへまた買い付けに行くといった形でビジネスを拡大していったと語っています。(を)を目ざとく手掛けた人々がビッグチャンスをもとに、今のビジネス界の中枢になっています。

その彼らが今、更なる経済的繁栄を求めて、ロシアや中国本土ではない国々との経済交流を拡大しようとしています。そして、彼らが注目する国家の一つに間違いなく、



スカイテルとの会議風景

「私たちの日本」が挙げられています。

モンゴルの人々はモンゴルの特性を生かし、それを日本のビジネスマンにもしかりと認識してもらい、つまり、日本人や日本企業にもモンゴルとのビジネス交流をしてしかりとそのメリットを享受してもらい、ことにより対等な立場で日本との経済交流を拡大したいと期待しています。

こうしたモンゴルと日本が真の経済交流拡大を図れるよう、私も何とか力を尽くしていきたいと考えています。

そして学生たちも既にモンゴル学生たちとの交流を開始しました。その学生たちを再び連れて今度は夏のモンゴルを訪れ、交流の輪を更に広げたいと考えています。

(真田)

真田幸光教授プロフィール

- 【学歴】 1986年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 【職歴】 1986年4月 株式会社東京銀行入行
1997年12月 株式会社ドレスナー銀行入行
1998年11月 愛知淑徳大学ビジネスコミュニケーション研究所助教授
2000年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部助教授
2002年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部教授 (現在に至る)
- 【専門】 国際金融、アジア経済
- 【社会活動】 1988年4月 中小企業総合事業団中小企業国際化支援アドバイザー
1996年4月 韓国中央銀行研修院外部講師
1998年9月 株式会社日本格付研究所客員研究員
1999年4月 株式会社社会基盤研究所客員研究員
1999年12月 国際通貨研究所客員研究員
2000年4月 日本災害医療支援機構評議員 (すべて現在に至る)
- 【メディア出演】 ・ラジオ日本(今年1月からレギュラー出演。金曜朝7時35分から8分間)
・NHK「クローズアップ現代」(2回)
・ほかにBS22、BS23、NHKラジオ「60Minutes, Today1s Japan」など多数



現地ビジネスマンとの会食風景



大統領主催パーティーでのスピーチ風景

現代社会学部の 吉澤晋教授が 経済産業大臣表彰と 勲4等旭日小綬章を受章



吉澤晋教授

現代社会学部現代社会学科の吉澤晋教授が昨年10月15日、経済産業大臣表彰を受章しました。対象功績は以下の通りです。日本工業規格特に室内空気清浄に関する多数の規格の原案作成・制定、普及に功績があった。更に、クリーンルーム技術に関する国際規格ISO規格の作成・制定にあたっては、日本国代表として10年近くに亘り参加、日本工業規格の内容を国際規格に採用させることに貢献し、特に第三部測定

法については主査としてまとめている。続く11月3日には、勲4等旭日小綬章を受章。対象功績は以下の通りです。在来の設計施工を対象とした工学的な建築物の体系に対して、生活、管理、改善に互る居住者を中心とした体系を提唱して、保健関係者、建築工学者の教育を通して、健康的な居住空間を出現することに努力した。実験・理論研究により得られた結果から急増したガス中毒死を激減させ、室内の微生物汚染についての研究から、現在のハイオ環境の樹立に貢献した。室内換気についての研究から、わが国でのシクル現象の発生を未然に防いだ。また、わが国のクリーンルーム技術の展開に努力し、LSIをはじめとする産業技術の高度化の基礎を築いている。

姉妹校の セント・キャサリンス校から、 交換留学生がホームステイに



セント・キャサリンス校からの留学生

本校と姉妹校提携を結んでいるオーストラリア・メルボルンのセント・キャサリンス校から、冬休み（現地では夏休み）を利用して4人の生徒がやってきました。今年度、来日したのは高2のマーリン・マクグラスさん、高1のロレッタ・ミヨイさん、ロス・エドワーズさん、ジーナ・サモンズさん。4人は12月14日に名古屋空港へ到着。その後、ホストファミリーを引き受けていただいた高3の日比野祐希さん、高2の奥田彩子さん、種市麻理さん、立木美実さん、高1の松本有里香さんのご家庭へと向かいました。学校へは12月16日に初登校し、職員朝礼で立派なあいさつをしました。

米沢唯さんが スイス・ローザヌの バレエコンクールに参加



米沢唯さん

高1の米沢唯さんは塚本洋子バレエスタジオに所属し、厳しいレッスンを続けています。昨年4月には、東京で開かれた第59回舞踊コンクールで優勝。さらに第15回全国洋舞コンクール・クラシックバレエの部女性ジュニア第一部でも第2位に入賞と、数々の優れた実績を重ねています。そんな米沢さんが若手バレエダンサーの国際的登竜門と言われるスイスの、ローザヌ国際バレエコンクール（今年1月26日〜2月2日に開催）に参加することになりました。大きな活躍を期待したいものです。

50年前、「原爆の子の像」の モデルへ届いた千羽鶴 中日新聞で紹介される



1月8日付の中日新聞「中日春秋」で、50年前の本校の活動が紹介されました。広島平和記念公園の「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんは、昭和20年2歳で被災し、小学6年生のときに白血病と診断されます。愛知淑徳高校では当時、原爆で苦しむ人たちのために千羽鶴を折っており、その中の一羽が禎子さんに届きます。禎子さんは、千羽折れば元気になれる、という願いを込め、自分でも折り始めますが、わずか12歳でその短い生涯を閉じました。

学園では、修学旅行に戦跡見学を組み入れるなど、現在も平和学習を続けています。爆し、小学6年生のときに白血病と診断されます。

交換留学生たちはクリスマスやお正月など、日本の冬の行事を体験したほか、京都への日帰り旅行やトヨタ自動車なども見学。1月15日には学校主催のエアウェル・パーティー、そして19日の帰国まで一か月強、名古屋に滞在しました。年末年始の忙しい時期にホストファミリーを引き受けていただいた皆様、ありがとうございました。

「社会を明るくする運動」 作文コンテストで 高橋夕波さんが入賞



高橋夕波さん

法務省官轄全国保護司連盟が主催する「社会を明るくする運動」作文コンテストで今年度、2年の高橋夕波さんが全国保護司連盟会長賞を受賞しました。全国から5万8千余の応募があった中で、全国2位にあたる快挙です。1月に本校で伝達式が行われ、表彰を受けました。

担任の先生から応募をすすめられた高橋さんが書いた作品は、「ガソリンの目」。高橋さんはある日、ツバメのひなが巣から落ちるのを目にします。次に2人の少年が1人の少年を脅している場面に出会います。しかし通り過ぎる誰もが、無関心を装い、何もしようとしません。高橋さんはそんな人々と同じように何もできなかった自分を、ガソリンの目しか持たない人間として反省します。そしてこれから、人々の温かい手ややさしい言葉で支えられる社会になるように努力したいと結んでいます。



阪神タイガース監督 星野仙一氏が PTA講演会に



12月9日、恒例のPTA講演会が実施されました。平成14年度の講師は、阪神タイガース監督の星野仙一氏。監督の2人のお嬢さんが本校の卒業生ということもあり、以前にも本校の学園祭を見に来られたことがあります。今回は、この1年、阪神かく戦へり」と題して、約1時間半にわたり、随所に笑いの渦が起きる和やかな講演会となりました。講演会に先立ち、1999年度星野竜優勝の記録」というビデオテープが上映され、会場外のロビーでは、1999年度の中日入部紙上で見ると、中日全勝「試合」の展示会が開かれました。来期は是非強い阪神として、口野球を沸かせてほしいものです。

星が丘キャンパス新棟の 地鎮祭を実施



学園○○周年を記念して建設される星が丘キャンパスの新大棟の地鎮祭が昨年12月10日に行われました。工事の安全と完成した建物の守護を、参集した多くの人が祈願しました。エスカレーター、エレベーターを設置し、バリアフリーの通路、教室図書館、交流フリースペース（食堂）など、どのような人々をも受け入れ学べるように配慮された校舎。施設、設備の充実を図り、快適な教育環境をめざした校舎は、平成16年1月末に完成します。さらに同キャンパス既存の校舎の改修工事も予定されており、現代社会や学生のニーズに応えようとする本学にふさわしい建物です。



石川恵里華さん

石川恵里華さん、 スケート(フィギュア)で インターハイに出場



高1の石川恵里華さんが1月に群馬県で行われた第52回全国高校スケート競技選手権大会フィギュアの部に、愛知県代表として参加しました。小学校6年生から本格的にスケートを習い始めた石川さん、現在は授業が終わると週15回、名古屋古屋スポーツセンターに駆けつけ、酒井康資先生の指導のもと、2時間、水曜と日曜には3時間以上の特訓を受けています。石川さんのグレードは現在5級。先日、NHK杯で優勝した恩田選手が7級ですから、実力のほどが分かります。小柄な石川さんがリンクに上がると、大きく見えるほどです。学園ではこれまでに例のない珍しい競技への参加で、愛知県としても大きな期待を寄せています。